

幸先の良いスタートを切った国内株式市場 - 景気拡大や良好な企業業績見通しが株価の追い風に -

当レポートの主な内容

- ・日経平均株価は昨年末からの上昇が1000円を超え、幸先の良いスタートを切っています。今後の年間パフォーマンスへの期待も高まっています。
- ・外部環境が世界同時景気拡大の様相となっていることや、2018年の企業業績に対する改善期待などを背景に、国内株式は、当面、強含みで推移することが予想されます。

高まる年間パフォーマンスへの期待

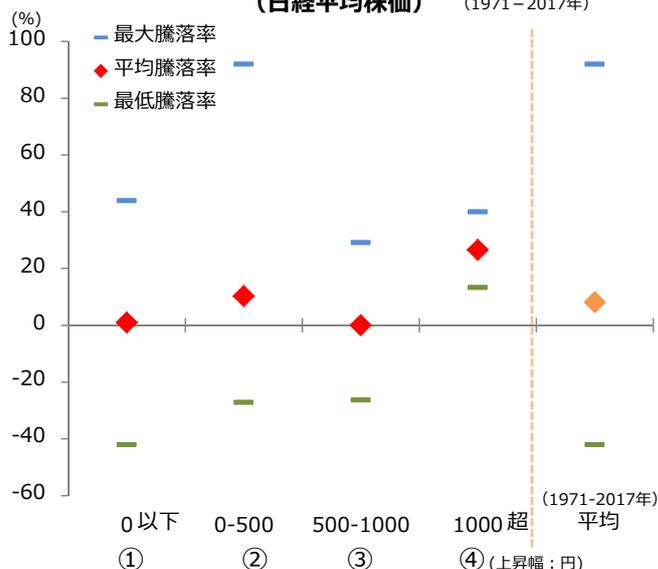
日経平均株価は昨年末からの上昇が1000円超となった後、高値圏で推移しており、年間パフォーマンスへの期待が高まっています。そこで、大発会からの上昇幅と年間のパフォーマンスの関係を過去の株価データを基に分析しました。年初5営業日中の日経平均株価の上昇幅別に4分位し、当該年の年間騰落率を調べると、5営業日の間に1000円超上昇した年は1988年、1994年の2年で、平均27%上昇しています(図表1、④)。昨年末の日経平均株価に平均上昇率を当てはめると約2万8800円となります。また、同様に年初5営業日の上昇率別に分析すると、2%以上-3%未満の年が平均28%上昇しており、3%以上-4%未満が同12%下落、今年と同じ4%以上の年は、同17%上昇となりました。これを昨年末株価に当てはめると約2万6700円となります。こうした試算は、今年の株式相場が同様に上昇するというを示唆するものではありませんが、国内株式市場は、まずは幸先の良いスタートを切ったと言えるのかもしれない。

企業業績の改善が評価されれば上値を試す可能性

次に、年初に1000円超上昇した上記の年(1988年、1994年)の月次騰落率を見ると、5月頃までは強含みで推移し、且つ、比較的高い上昇となっています。新年・新年度入りによる新規運用資金の流入など、需給が影響した可能性があると考えられます(図表2)。

足元、10-12月期決算の発表が始まっていますが、今後、企業業績の改善が評価されれば、株価は上値を試す余地があるものと考えられます。また、外部環境に目を向ければ、世界同時景気拡大の様相が強まっており、日本企業にも追い風になっています。当面、国内株式は強含みで推移することが予想されます。

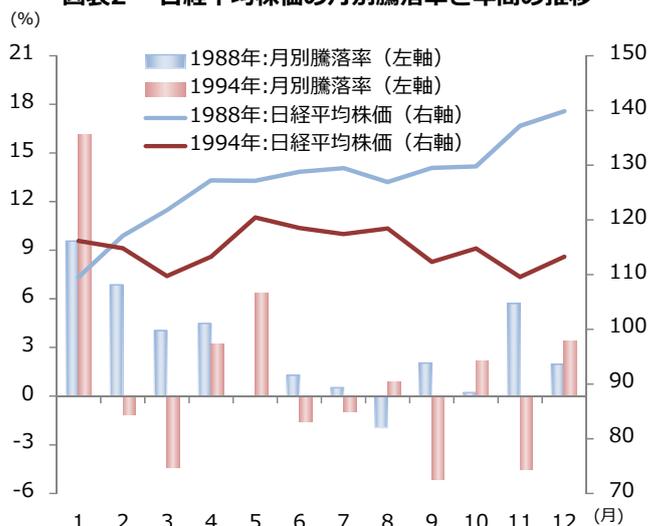
図表1 年初5営業日中の上昇幅別年間平均リターン
(日経平均株価) (1971-2017年)



(注) 上昇幅:前年末と大発会から5営業日間の最高値(終値)との差
騰落率:当該年の終値と前年の終値の比較

(出所) Bloombergのデータより岡三アセットマネジメント作成

図表2 日経平均株価の月別騰落率と年間の推移



(注) 日経平均株価は前年末を100として指数化

月別騰落率は各月の終値比較

(出所) Bloombergのデータより 岡三アセットマネジメント作成

以上 (作成: 投資情報部)

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、投資環境に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

皆様の投資判断に関する留意事項

【投資信託のリスク】

投資信託は、株式や公社債など値動きのある証券等（外貨建資産に投資する場合は為替リスクがあります。）に投資しますので、基準価額は変動します。従って、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。

【留意事項】

- 投資信託のお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 投資信託の収益分配は、各ファンドの分配方針に基づいて行われますが、必ず分配を行うものではなく、また、分配金の金額も確定したものではありません。分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

【お客様にご負担いただく費用】

- お客様が購入時に直接的に負担する費用
購入時手数料：購入価額×購入口数×上限3.78%（税抜3.5%）
- お客様が換金時に直接的に負担する費用
信託財産留保額：換金時に適用される基準価額×0.3%以内
- お客様が信託財産で間接的に負担する費用
運用管理費用（信託報酬）の実質的な負担
 ；純資産総額×実質上限年率2.052%（税抜1.90%）
 ※実質的な負担とは、ファンドの投資対象が投資信託証券の場合、その投資信託証券の信託報酬を含めた報酬のことをいいます。なお、実質的な運用管理費用（信託報酬）は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。
- その他費用・手数料**
監査費用：純資産総額×上限年率0.01296%（税抜0.012%）
 ※上記監査費用の他に、有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産から間接的にご負担いただく場合があります。
 ※監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額若しくはその上限額又はこれらの計算方法を示すことはできません。

【岡三アセットマネジメント】

商 号：岡三アセットマネジメント株式会社
 事 業 内 容：投資運用業、投資助言・代理業及び第二種金融商品取引業
 登 録：金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第370号
 加 入 協 会：一般社団法人 投資信託協会／一般社団法人 日本投資顧問業協会

上記のリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。各費用項目の料率は、委託会社である岡三アセットマネジメント株式会社が運用する公募投資信託のうち、最高の料率を記載しております。投資信託のリスクや費用は、個別の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に、個別の投資信託の「投資信託説明書（交付目論見書）」の【投資リスク、手続・手数料等】をご確認ください。

<本資料に関するお問い合わせ先>

フリーダイヤル 0120-048-214（9:00～17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く）